

北総モラルアップ通信



子ども・職員・保護者・地域の未来にむけて！「ていねいに、たいせつに」

10月も2週間が経過し、朝晩の空気が涼しくなりはじめ、秋の気配が感じられるようになりました。学校訪問も終盤を迎え、各学校には諸表簿の整理や校内環境の整備等、日常の業務と並行してご準備いただいていることに心から感謝申し上げます。

さて、北総教育事務所では「児童生徒の安心・安全と、子供の人権・尊厳を大切にした教育」を最も大切にして推進しているところです。しかし、残念なことに、令和7年10月15日の県教育委員会会議で新たにいせつ1件、児童生徒性暴力等1件、自転車の酒気帯び運転1件、管理職の許可のないSNSを利用した自校生徒とのやりとり2件、合計5件の懲戒処分が決定されました。令和7年度は、これまでに合計21件の懲戒処分（監督責任4件を含む）となり、危機的な状況が続いています。学校では、年間計画に沿って研修を進めていると思いますが、他人事と捉えず、この機会にぜひ研修を行い全員で不祥事根絶について考える機会を設けてくださいますようよろしくお願いします。

【今月のテーマ】

不祥事〇、不祥事根絶を目指して

～児童生徒性暴力等の根絶に向けて～

【管理職】

- 校長は、教職員の意見を聴き又は教職員と協議した上で、児童生徒性暴力等の未然防止、早期発見、適切な対処のための組織体制を整え、徹底を図る。教頭は、校長の職務を適切に補佐する。

＜学校における取組の項目の例＞

- 児童生徒性暴力等の理解・研修
- 児童生徒性暴力等防止のための委員会の設置
- 未然防止のための措置
 - 基本方針の共有・徹底
 - 物理的・心理的死角の排除
 - 教職員相互での注意
- 早期発見のための措置
 - 児童生徒からの相談・通報体制の周知
 - 教職員からの定期的な情報収集
 - 保護者・児童生徒への啓発
- 適切な処理のための措置
 - 教育委員会への報告
 - 記憶の汚染の防止
 - 児童生徒の保護・保護者への適切な対応
- 年間計画

更衣室として活用している空き教室は特に注意が必要です！

- 使用していない特別教室は施錠されているか。
- 扉の外側から室内を見ることができるか。
(すりガラスの場合は扉を開けておく、カーテンは開けておく)
- 内側から鍵がかけられないようになっているか。
- 余計なものが置かれていないか。(カメラ等不審物の設置防止)

性暴力被害の話聴く際の留意点

①聞き取りは最小限にとどめ、速やかに管理職に報告する。

- ・誰が／誰に／何をした この3点だけを聞く。
- ・「いつ」「どこで」は記憶に残りにくいので、聞いてはいけない。
- ※子どもが自分から話す場合には、止める必要はない。

②子どもから聴いた状況を記録する。(録音・メモ)

- ・いつ、どこで、どのようなやり取りの中での話か。
- ・子どもの発言や自分の質問を要約したり整えたりせずに、**発言したゼリフのまま記録**する。

③他の人が子どもから、再度話を聞くことはしない。

- ・報告を受けた管理職や他の教職員からの再度の聞き取りはしない。
- ・**管理職は直ちに教育委員会に報告**する。

(「教職員の服務に関するガイドライン」P.45)

暗示や誘導など不適切な聴取をすると子どもの**記憶が汚染**されてしまいます。汚染された記憶に基づく証言は信用されないおそれがあり、適切な懲戒処分や刑事手続きの妨げとなってしまいます。

【児童Xとの望ましい問答例】

- X「嫌なことをされているの。」
T「どうしたの。」(なにをした)
X「抱きしめられるの。」
T「誰が抱きしめるの。」(誰が)
X「A先生。」
T「A先生が誰を抱きしめるの。」(誰に)
X「わたし。」
——これ以上の質問をしない——
T「そうなんだね。よく話してくれたね。どうするか考えるね。」

北総教育事務所長メッセージ改訂

10/15（水）の千葉県教育委員会会議におきまして、5件の懲戒処分があり、令和7年度は懲戒処分件数が21件（昨年度同時期比で2倍以上）となる非常事態です。杉野教育長からも根絶に向けた非常に強い想いを込めた訓示があり、北総教育事務所としても、より一層教職員一人一人の心に届き、響く取組の強化、継続を行っていく必要性を感じています。そこで「所長メッセージ」を改訂し、各種訪問、会議などでの周知を継続していきます。

不祥事0、不祥事根絶を目指して (北総教育事務所長メッセージ)【10月改訂版】

処分案件が非常に多いことに加え、児童生徒に対するわいせつ、セクハラなど児童生徒の尊厳を踏みにじる行為が繰り返し行われていることは非常に悔しく、私たちの周知・注意喚起不足を痛感しています。

不祥事は誰にでも、どこでも起きる可能性があります。「最後の最後に自分のことしか大事にできない」「子ども、保護者、地域の方々、同僚、家族などのことよりも自分の欲望や欲求を最優先してしまう」「自分自身を制することができずに、行為をした後の悲惨な状況などを思い描くことができない」などにより、許されない行為に至ってしまうのではないかと考えています。

だからこそ、まずは、「これまでも伝えてきたからわかっているはず、知っているはず」という前提を捨て、改めてどのような行為が不祥事にあたるのか、また不祥事に至らないためには、どのような対応をすべきなのかということを日常的に全職員で共通理解できる機会をもってほしいと思います。

加えて、不祥事を起こせない環境（物理的死角の排除）、起こそうとしても踏みとどまれる状況（心理的死角の排除）を学校として作り上げなくてはならないと強く思います。

今の学校に、教職員が児童生徒と二人きりになれる状況はないでしょうか、外から見えないようにすることができる教室はないでしょうか。また、「他の学年だから、担当教科が違うから」などから、お互いの行動に口をはさめない雰囲気や「～先生は普段しっかりやっているから大丈夫、～先生はやるはずがない、～先生に限って」という偏った信頼感が広がっていないでしょうか。

お互いを疑うということではなく、子どもたちの笑顔あふれる「ていねいで、たいせつな」教育活動を継続的に進めていくためにも両死角の排除を全職員で共有しながら進めてほしいと思います。

今後も皆さんの想いを結集した取組を継続し、「不祥事0、不祥事根絶」を実現していきましょう。

令和7年10月 北総教育事務所長 神澤 賢

北総モラルアップ通信へのご意見・ご感想

早速、第2号へのご意見・ご感想をありがとうございました。その中に参考事例がありましたのでご紹介させていただきます。

- ・危機管理の校内研修において、カードの使用はとても良いと思った。毎年4月の初めに実施しているので、これから活用していきたい。
- ・安全チェック参考になりました。本校でも職員作業で、児童の着替え場所を整理しました。今後、安全点検に取り入れていきたいです。

北総モラルアップ
通信へのご意見・ご
感想はこちらから！

